

■ 富長敦也展(彫刻コース講師)

大阪市南堀江 ギャラリー プチボワ
2005.9.22(木)~10.1(土)



Hell of chocolate
2006.2/6~2/19



■ 今川マリコ個展(日本画3年)
Hell of chocolate
神戸市 Art Cafe Chim Chim Cherry
2006.2.6(月)~2.19(木)

■ 安川弘造木彫展(01年修士課程修了)

北九州市立美術館 アネックスホール
2006.2.14(火)~2.19(日)



■ フクニシナエ アートコラボレーション

音と映像のインスタレーション
(福西奈苗:修士課程2年)
神戸市 KOBE LIVEACT BAR
2006.1.28(土)



■ 北浦亮子(02年卒)他
グループ展「Sign」
東京都銀座 ギャラリー本城 2005.11.28(月)~12.10(土)



■ 平成17年度 大学院修士課程修了制作展/論文・作品公聴会

宝塚造形芸術大学大学院修士課程の修了制作展および
論文・作品公聴会が本学で行われます。



会場 宝塚造形芸術大学 宝塚キャンパス
マルチメディアタワー1F

期日 修了制作展 2006.2.8(水)~2.14(火)
論文公聴会 2006.2.13(月) 9:30~



昨年度の公聴会の様子

◆宝塚造形芸術大学展(美術学科 卒業制作展・春の造形展)/啓蟄展(彫刻コース)のお知らせ◆

■ 宝塚造形芸術大学展

美術学科の全てのコース(美術史・美術理論/洋画/日本画/彫刻)
および大学院による、卒業制作展と春の造形展の合同展覧会です。

会場:大阪市立美術館 地下展覧会場

2006年2月21日(火)~26日(日)

【開催時間 9:30~17:00(入場は16:30まで)】

※駐車場がございませんので、ご来場の際には公共交通機関をご利用ください。

■ 啓蟄展 彫刻コース有志による特別展覧会です。

会場:パナホーム本社ビル(千里中央)ロビー内

2006年2月28日(火)~3月5日(日)

【開催時間 10:00~17:00】

【特別展示】
市川悦也(彫刻コース教授)・西村公泉(彫刻コース教授)・富長敦也(彫刻コース講師)



AU国際アート展・ウクライナ

AU International Exhibition in UKRAINE

ウクライナ キエフ 2005.11.26(土)~12.2(金)

■ 具体美術AUの世界的なアーティストである美術教授・嶋本昭三先生率いるAUメンバー(美術学科在学生・卒業生含む)が、ウクライナの地で様々なアートを展開。現地ウクライナの現代美術アーティスト達と交流をしました。



「具体美術の嶋本昭三がウクライナに来た！」ということでウクライナの朝のトップニュースに急速生放送される程、今回の具体美術展大きなものでした。そこではアートの柔軟な考え方をウクライナに広めたり、また、日本の現代美術とウクライナの現代美術について考える機会ともなりました。

■参加者

安藤静 熱田守 磯貝文子 Isoy Yamamoto 伊藤芳子 浦大典 角野充 小城由実 香崎一博 佐藤美佐子 柴田照子 sugiyama.ok-tomoko 鈴木アキオ 鷺見康夫 太農和弘 高橋裕太 高田雄平 多養麻子 鶴亀公香 徳永智子(トミー) 鳥居塚純代 中野有人 中山萌 西澤美幸 貫井伸浩 野村能生 野村素生 花田伸 古木喜巴 藤山晃代 FUJIWO(藤山侑子) 松井耕平 松田明久 宮本陽子 宮本光信 水野良隆 村永光昭 mere-mere RAW 山本直樹 山本良子 八木智弘 山根寿子 小島慶子 土本愛子 三原加奈子 谷田広 田中久介 まなべさき 寺島祥郎 古川寛和 Yukko and RAW



REAL vol.2

神戸市 兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー
2005.11.29(火)~12.4(日)

■ 美術学科の在学生と卒業生や講師・助手を交えた有志による
第2回となるグループ美術展「REAL」が神戸の美術館で開催されました。

- | | | |
|---|--|---|
| <p>■参加者 【洋画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 河陽順 (4年) 荒駒るみ (4年) 金子江里 (4年) 久米史泰 (4年) 林 恭子 (4年) 柴田真里亜(4年) 杉本あかり(4年) 青木信親 (4年) 土本愛子 (3年) 竹下泰裕 (3年) 新谷友佳子(3年) 中野有人 (3年) 木村俊介 (3年) 権基英 (3年) | <p>【美術史・美術理論】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近藤雄介 (1年) 七理修 (1年) <p>【日本画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 裕宮淳美 (3年) 牧野菜生 (3年) <p>【彫刻】</p> <ul style="list-style-type: none"> 杉本侑亮 (修士課程1年) 中川つむぎ(4年) 今川廣行 (4年) 中村享史 (3年) | <p>【卒業生】</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡本善弘 (02年卒) 寺田弥生 (05年修士課程修了) 北浦直美 (05年卒) 木村智博 (講師) 上岡秀拓 (助手) |
|---|--|---|

■ 美術学科教授・中村貞夫先生の総評です。



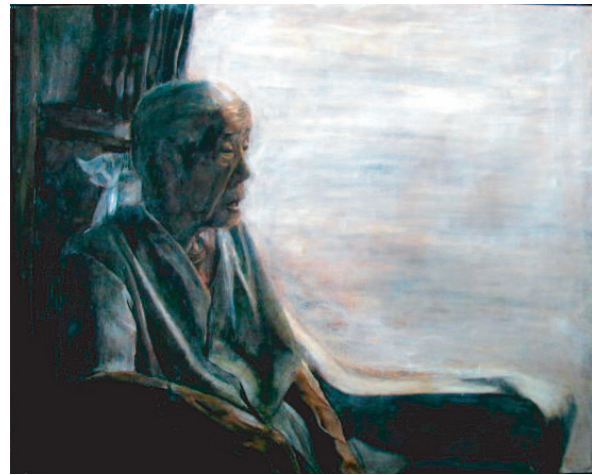
「際立つ個性、鋭い問題意識」

2回目のREAL展が兵庫県立美術館原田の森ギャラリー西館で開かれた。美術学科の4つのコース、美術史美術理論・洋画・日本画・彫刻の在学生、院生、卒業生および本学出身の助手、講師27名の作品が展示された。版画、CGアート、ミクストメディア、油彩画、日本画、金属立体、木彫刻、ドローイングなど、多彩な表現が用いられている。前回はやとりすました穏やかな印象の会場だったが、今回はそれぞれの作品の個性が際立ち、鋭い問題意識を持ったような思い切った踏み込みが見られ、観覧者に清々しい印象を与えた。毎年繰り返し続けていく意向のようで、今後の発展を期待している。

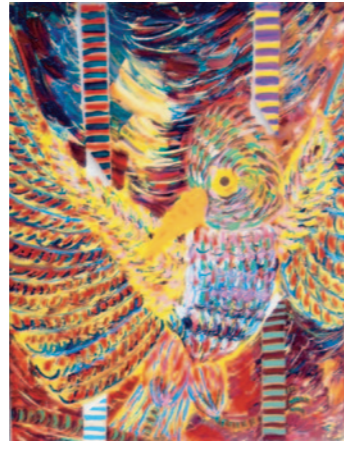


■第32回公募 近美展 東京都美術館 2005.11.25(金)~12.1(木)

洋画コース3回生・陰山潔和さんと、大学院修士課程1年・野村素生さんが入選されました！



「おばあちゃん」 陰山潔和(洋画3年)



左:「飛びたち」 右:「ゴンドリエーンの帰り道」 野村素生(修士課程1年)



■第11回ふれあい公募美術展 彫刻部門

兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー 2005.12.1(木)~12.4(日)

大学院修士課程2年・岡部秀子さんが兵庫県知事賞を受賞！



「想い」 岡部秀子(修士課程2年)

■キャンドルライト 光のインスタレーションイベントに 本学美術学科生も参加し、大阪の街を盛り上げました。

-灯が消えて、火がともる。 そのゆらめきの一つ一つが、澄んだ思いを心にともしてくれる-

キャンドルおよそ5000個を使った光のインスタレーション『1000000人のキャンドルライト@OSAKACITY』(空間芸術のパフォーマンス)が大阪西梅田で行われました。その趣旨は、「夏至と冬至の夜8時から10時まで、電気を消してスローな夜を過ごそう」というものです。こうした活動は2003年から続けられ、いまや東京タワーの消灯、全国各地での個性的なイベントや著名アーティストのライブなどの場でのライトダウンなど、ムーブメントとして確実に広がっています。大阪における今回のイベントでは、総合デザイナー協会会員のデザイナーや美術系の学生も混じって行われましたが、本学美術学科の学生も参加しました。

大阪市 西梅田 2005.12.22(木)



■美術学科学生らが巨大なクリスマスツリーを制作！

川西市 アステ川西 2005.11.25(金)~12.25(日)

川西市・阪急川西能勢駅～JR川西池田駅間にある大型ショッピングモール・アステ川西からの地域活性化計画の呼びかけに応じた本学美術学科学生や卒業生らが、アステ川西内にある広場にクリスマスシーズンに合わせて巨大なクリスマスツリーをダンボール等を使って手作りで制作しました。このニュースは新聞でもとりあげられました。



【朝日新聞 2005.11.26(土)】

■洋画コース学生の展覧会が新聞に掲載されました。

洋画コース1年・多養麻子さん、吉村沙耶香さん、来田亜由美さんらによる「命」をテーマとしたグループ展が目玉され、新聞に掲載されました。西宮市 ギャラリーわびすけ



【朝日新聞 2005.12.24(土)】



■美術学科在学生・卒業生らが大阪の画廊で展示会を開催！ ー日本のエッセンス展ー 大阪市心斎橋アートスペース ~2006.2.28(火)

ヒロ・ヤマガタ、ティエリー、ワイランド、ドラクロワなど、主に世界の著名なアーティストの作品を扱っている心斎橋の画廊「アートスペース」で新しい展覧会の企画として本学の美術学科の在学生や卒業生3名の作品を展示しました。【松井コーヘー(02年卒) 高田雄平(04年卒) 松田明久(洋画3年)】

好評につき、開催期間予定を1ヶ月延長し、2006年2月末日まで展示されています。



■絵画コース卒業生 長尾敏篤さん(01年卒)が神戸三宮で 巨大な壁画を制作しました。

神戸市 三宮 2005.12.12(月)



昨年秋から制作を進めていた、神戸・三宮激安老舗花屋店舗新築に伴う大型壁画が完成。縦14メートル・横10メートル、ビル約4階分に相当する神戸でも最大規模級のビッグアートの誕生である。

高層オフィスビル群に囲まれ日中でも日陰になりがちな磯上通りの路地裏。古くからその地区で花屋を営んでおり、安価で良質な植物を提供し地域の方々から愛されている店舗とあって、フラワーショップオーナーの彩りある活気に溢れた街づくりに対する情熱は強い。

震災10年を機に倉庫兼店舗を新築した際、殺風景なオフィス街、無機質な建造物のままでは愛想なく活気に欠くのではと、大型壁画制作を決意し新聞広告により気概溢れる作家を募った。数ある申し入れの中から、近年神戸での大型ストリートアートの制作と推進を掲げ精力的にその実績と活動の範囲を広げているアーティスト・長尾氏が選出され、今回のコラボレートが実現。東西延べ200平米にも及ぶ壁画を、一人で約3週間かけアートデコレートした。

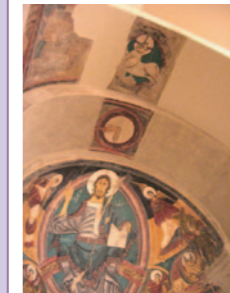
作品は、明るさと元気を発信する意味合いを込め原色を基本にピンク・オレンジ・グリーンと、花や植物を散りばめた様な華やかさを意識し配色。花鳥風月をモチーフとし、生命が陽を目指し飽くなき成長と上昇を重ねる躍動感を表現した。(文:長尾敏篤)

■美術学科教授・高井道夫先生のスペイン探訪レポートです。 2006.1.

マドリッドで見たピカソの『ゲルニカ』は圧巻だった。この制作過程はド・ラ・マールが撮った写真を見て知っていたが、原画を前に制作過程を振り返る時、ピカソの飽くことのない探究心が伝わってくる。そこにはベラスケスの『ラス・メニーナス』の造形が裏打ちされていると思った。コルドバのメスキータ。この祈りの場の中で特にミフラープは深い精神性の形に満ちている。グラナダのアルハンブラ宮殿の華麗さと対照的だ。イスラム教文化とキリスト教文化の共存にも、不思議な刺激を感じる。

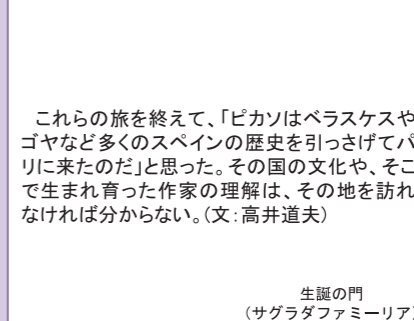


ミフラープ



栄光のキリスト (カタルーニャ美術館)

バルセロナのカタルーニャ美術館のロマネスク絵画も圧巻だった。私はバリ留学時代、休暇を利用してしばしばフランスロマネスクを訪ねる旅をした。フランスと比べて、本で見る太々とした線で描かれたスペインロマネスク絵画は好きになれなかった。しかし今回の旅で、その力強い生命線に目を見張った。最後の見学となった、バルセロナのサグラダファミリア。この前に立って、大交響曲が建物と化したような、空間にそびえる雄大な建築家の精神を見た。それまで巨大なトゥモロコシと思っていたのは、ガウディーに対して失礼だった。



生誕の門 (サグラダファミリア)

これらの旅を終えて、「ピカソはベラスケスやゴヤなど多くのスペインの歴史を引っさげてパリにきたのだ」と思った。その国の文化や、そこで生まれ育った作家の理解は、その地を訪れなければ分からない。(文:高井道夫)

